

TOPICS  
2

## トピックス…②

国際乳製品価格の  
国内市場への影響

国内乳業は相次いで、バターやチーズなど乳製品の値上げや容量削減を発表しているが、その理由の一つとして挙げているのは世界的な乳製品価格の高騰である。2014年2月6日に国連食糧農業機関 (FAO、Food and Agriculture Organization) が公式サイトにおいて発表した、「世界食料価格指数 (FFPI:FAO Food Price Index)」の最新データにあたる2014年1月分でも、その状況が確認できる。

## 乳製品価格のみが上昇

国連食糧農業機関 (以下、FAOという) によると、世界食料価格指数 (以下、FFPIという) が下落している中であって、乳製品価格のみが上昇しているという。食品群の国際的な価格の月ごとの変化を計測しているFFPIは、農産物の主要生産国での豊作を受けて2014年1月に203.4ポイントとなり、前月比1.3パーセント、前年同月比44ポイントの下落となった。

とくに穀物は、大豊作となったために価格が下がり、前月比1.6パーセント低下、そして2013年1月よりも23.0パーセントも低下した。ここ数ヶ月に渡り強気であった食肉価格も1月に下落した。このような状況の中で、注目すべきは、乳製品価格の動向である。乳製

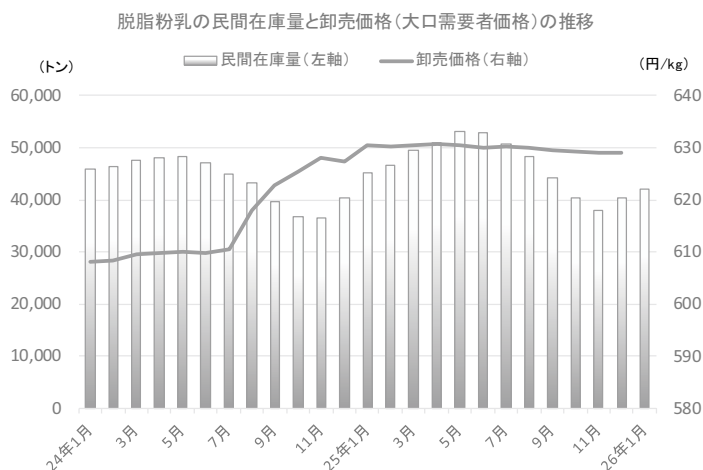
品の価格は、とくに中国、北アフリカ、中東そしてロシア連邦の強い需要を大きく反映し、1月に1.3パーセントの上昇となった。

## 国内市場の動き

国内乳製品市場の需給状況を把握するデータとしては、農林水産省が公表するバターと脱脂粉乳の民間在庫量と卸売価格 (大口需要者価格) の推移がある。バターの民間在庫量は、25年12月末に17.6千トン (前年同月比▲7.8%) まで減少し、26年1月に19.1千トンと増加に転じた。卸売価格は25年5月をピークにほぼ横ばいで推移しており、12月は前月と変わらず1,237円/kg (前年同月比+1.5%) の高水準を維持している。

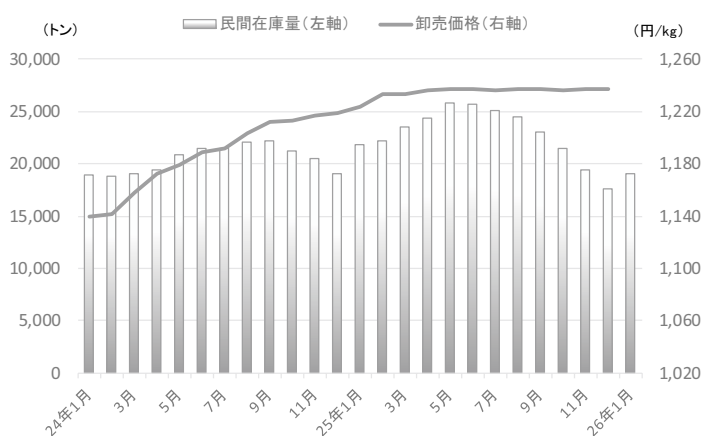
脱脂粉乳の民間在庫量は、25年11月末に38.0千トン (前年同月比+3.8%) まで減少し、12月に増加に転じ、26年1月に42.0千トンとなった。卸売価格は25年4月をピークに緩やかな低下傾向にあるが、12月は629円/kg (前年同月比+0.3%) と依然高水準にある。

このように卸売価格が恒常的に高水準にあることは、乳製品の需給がひっ迫状態にあることを示唆している。しかし、民間在庫



資料: 農林水産省調べ。

バターの民間在庫量と卸売価格 (大口需要者価格) の推移



資料: 農林水産省調べ。

庫量の推移をみると、長期的な増減を繰り返しており、決して需給ひっ迫が常態化しているわけではない。

なぜ、卸売価格が高水準で推移しているのか。このような価格高騰が、実需者の先行き不安感を煽っているということも否定できない。その背景には、わが国の生乳生産量が減少傾向にあり、販売の優先順位が低い「特定乳製品向け」が前年比で5%以上も落ち込み、バターや脱脂粉乳を十分生産できないという状況が続いていることがある。これに、国際乳製品価格の高騰が拍車をかけていると言われている。とくに脱脂粉乳は、粉乳調製品 (砂糖や植物性油脂との混合物) の国際価格高騰を受けて、国産品の需要が急速に拡大している。